

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

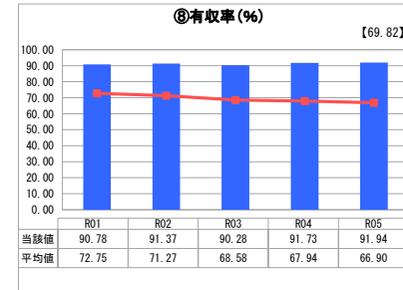
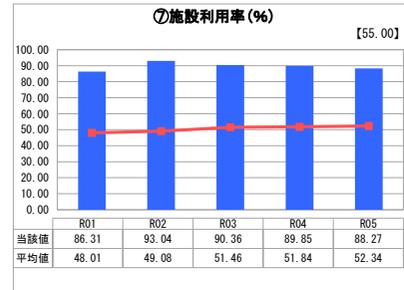
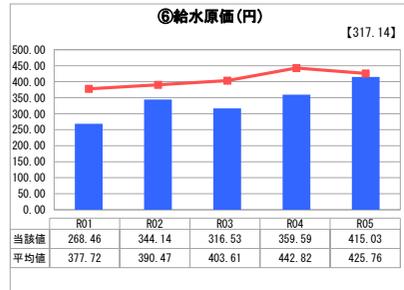
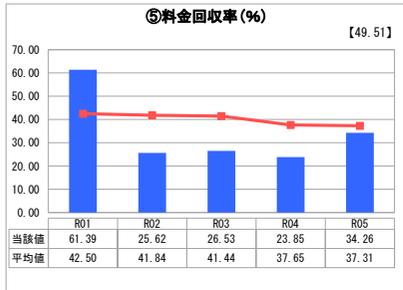
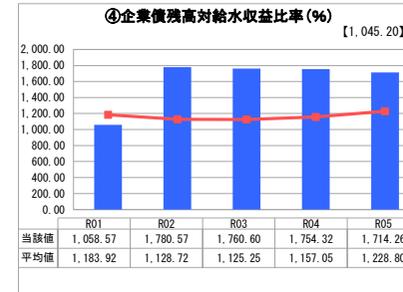
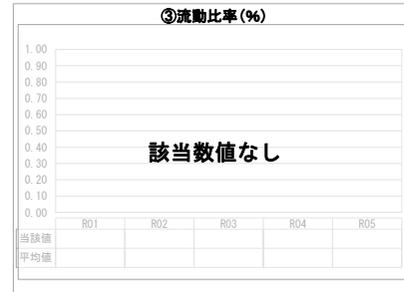
奈良県 上北山村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり定額料金(円)	
-	該当数値なし	100.00	2,420	

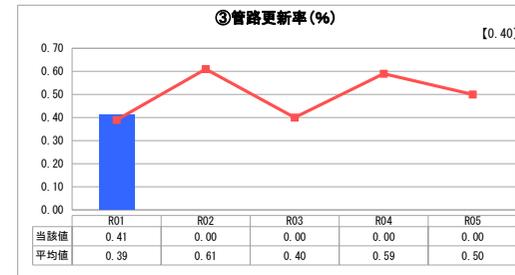
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
440	274.22	1.60
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
432	3.34	129.34

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

・収益の収支比率  
収益の収支比については、年々減少傾向にあり、今後水道料金の見直し、経費削減が必要と思われる。

・企業債残高対給水収益比率  
企業債残高対給水収益比率については、企業債残高により、平均値よりも高くなっている。今後、令和5・6年度に行った配水管布設替工事の元金の償還が始まるため、今後も高い比率を維持する見込みである。

・料金回収率  
料金回収率については、34.26%と低い水準となっているが、前年比と比べると約10%上昇した。ただし、経営に必要な経費を給水収益で賄えていない為、水道料金の見直しが必要と思われる。

・給水原価  
給水原価については、地方債償還金が増加し、年間総有収水量が減少したことにより原価が上がったと考えられる。

・施設利用率  
施設利用率については、類似団体平均値を上回っており、適切な施設規模であると思われる。

・有収率  
有収率については、類似団体平均値を上回っており、施設の稼働状況はほぼ効率的であると考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

管路更新率については、令和7年度改定予定の経営戦略の中で管路更新の検討を行う。

## 全体総括

令和7年度に経営戦略の改定を予定しており、料金の見直し、施設整備の適正化等の検討を行う。